おひさま文庫新聞

2023年
8月号
～第12号～

～発行元～
おひさま文庫
（NPO法人3.11こども文庫）
東金市東中島 297
電話：080-7556-0311

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

●人との関わりについて

東金市立福岡小学校　校長　行川永

学校は、長く続いたコロナ対応で、人と人との交流が制限され、小さな学校であるにも関わらず、子どもたちの中には、ほかの学年の児童の名前をよく知らない子もいたと聞いています。

そして、夏休みを前にした今、学校は元の姿を取り戻してきていると感じています。

昼休みには、多くの子ども達が校庭に出て、学年の枠を超え、声をあげて、楽しく遊ぶ姿が見られます。

人との関わりについて、ここ数年の学校生活は、子どもたちにとって我慢することばかりでしたが、そのような経験があればこそ、人と関わることの楽しさや大切さが一層、実感として捉えられるのではないでしょうか。

おひさま文庫には福岡小から沢山の子どもたちがお世話になっていますが、さまざまな人との出会いやつながりを糧に、心豊かな魅力ある人になってほしいと願っています。

●大きなお芋ができますように！

東金市立福岡こども園　園長　今井尚美

地域の皆様におかれましては、日頃より、東金市立福岡こども園（幼保連携型認定こども園）の教育運営に関しまして、ご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。さて、おひさま文庫の絵本を子ども達は、喜んで利用し、楽しい時間を過ごしています。

また、毎年恒例の芋苗植えを5月19日に3、4、5歳児が体験をさせていただきました。植え方についてのお話を真剣に集中してきくことができ、芋苗をベッドで寝かせるようなイメージを持って、優しく土をかけていました。散歩の際、「どうなっているかな？おおきくなったかな？」と生長を楽しみにしています。

この貴重な体験を活かし、こども園で夏野菜の苗植えをし、お世話をしながら野菜の形になっていく様子をよく観察しています。収穫する日が待ち遠しいようです。

これからも、地域の皆様のお力添えをいただきまして、職員一丸となって未来ある子ども達の成長の一部となれるようにしていきたいと思います。

教えてもらったようにできるかな？

一人一人、『大きなお芋ができますように』とお願いしていました！！

●大きなシャボン玉が作りたい！

東金市立嶺南幼稚園　園長　塚田礼子

シャボン玉は、子ども達の大好きな遊びです。幼稚園では、市販のシャボン液で楽しんだ後、年長組がシャボン液作りを始めました。

固形石鹸をおろし器で削り、ぬるま湯で溶かすと「ヌルヌルするよ。」等、気づきがたくさんありました。液が出来上がり早速試してみると、なかなか上手くいかず、すぐに終わりになってしまうかなと思ったら、年長児と担任はあきらめませんでした。どうしたら成功するのか教材研究を行い、毎日作り足しながら試行錯誤を続けました。そして数日後、大きなシャボン玉ができたのです。「やったー。」「今まで一番いいのができた。」とみんな大喜びでした 。

ありとあらゆる便利なものが売っている今、今回のように市販のものがあっても自分達の力で作ってみる経験は、とても大切だと考えています。今後も試したり工夫したりしながら興味関心を広げ、探求心を育てていきたいと思います。

●自然に恵まれた正気幼稚園

東金市立正気幼稚園　園長　野老知子

正気幼稚園は、広～い園庭に大きなヒマラヤ杉が特徴的な幼稚園です。園庭の周りには大きな木が何本もあり、子ども達のために、たくさんの木陰を作ってくれています。子ども達は虫が大好きで、暑い日でも涼しい木陰でダンゴムシを探したり、草むらでバッタを探したりして楽しんでいます。

6月のある日、年長児を対象に「ときがねウオッチング」の方々と自然物遊び体験を行いました。園庭にある花や草を使った紙染め遊びです。画用紙に花や葉っぱ、色々な種類の虫が印刷されていて、園庭にある花や葉をこすりつけていきます。きれいな紫色や、黄色、緑色も出てきました。「どの花を使ったの？」「あっちの葉っぱはきれいな色が出るよ！」子ども達も教えあいながら紙染めを楽しみました。色がついた花や葉っぱは、模造紙に作られた大きな木に貼って、年長組の入り口に飾ってあります。正気幼稚園の豊かな自然環境の中、伸び伸びと育つ子ども達です。

●一座建立（いちざこんりゅう）～特別な時間～

ヤマティ

おひさま文庫を訪ねると、どこからともなくどちらからともなく声を掛け合いながら笑顔で迎えてくれます。

「今日お茶あるの!?」「琥珀糖（こはくとう）ある!?」

月に一回のお茶会を楽しみにしてくれていることを嬉しく思います。始まる前から集まってお話しながら準備することもあります。いろいろなお話を聞かせてくれることも、手を出しすぎず気を利かせてできることを見つけられるのも素敵で、お菓子の名前やお道具の名前も自然と出てくるようになってお茶を通して一瞬一瞬に向き合おうとする素直な心を感じます。

初めの数秒　目を閉じて聴こえてくるのはお湯の沸く音や周りのいつもは気づかない様々な音。ささやかながら子どもたちにとっても新しい発見のようです。

成長するということは「自分の中の素直さに気づき大切に思う」ことかもしれません。それに気づかせてくれるのもまた子ども達なのだと思います。同じように見えて同じ時間はまたとはなく、おひさま文庫のお友だちと唯一無二の特別な時間を過ごせることをこれからも楽しみにしています。

●丸山製作所の見学

今年で2回目となった工場見学。最初に1895年創業時からの丸山製作所の歴史を教えていただきました。その後、走りながら農薬を噴霧する大型機械や消火器などの製造過程を見学し、最後は超大型の噴霧車両やドローンによる実演を見せていただきました。

小学校の校外学習を含め工場見学3回目の子という子もおりましたが、「何回行っても楽しい」との感想でした。子ども達にとって物作りの工程は、いろいろなことを想像できる大切な機会なんだなと思います。来年も是非見学させていただきたいです。

丸山製作所の皆さま、ありがとうございました。

＊今回は29名参加者（子ども24名・大人（スタッフ含む）5名）

●そよ風に泳ぐ鯉のぼり！

4月7日、おひさま文庫前の畑で「鯉のぼり」が泳ぎ始めました。いつも私たちを応援してくれているKさんに、「おひさま文庫に鯉のぼりがあるといいだけどねぇ」と相談するともなく話したら、翌日「ニヱ袋地区のMさん宅で鯉のぼりと柱を貸してくれると言ってたよ」との連絡をもらいました。

そして数日後、Mさんが「鯉のぼり」から「13mの柱」など一式を造園会社の大型トラックで運んできてくれ、おひさま文庫前の畑に柱をクレーンでつり上げて建ててくれました。

早々に親子の鯉が風に吹かれてゆっくりと泳ぎ出しました。その光景は遠方からよく見えます。この日から撤収する5月16日まで、毎日子ども達や地域の方々を楽しませてくれました。きっと来年も鯉のぼり達は元気に泳いでくれることでしょう。

鯉のぼりは毎日揚げれば良いだけだから手間はかからないと思っていたのは大間違いでした。柱を立てる作業には人手が必要だし、鯉たちの糸が風で絡んだら鯉のぼりを下ろせない等々。これらの難問はKさんやMさんはじめ地域の方々の知恵と経験で解決できました。改めてご協力頂きました方々に感謝致します。

●おひる食堂　～うどんを打つ、そして食べる～

こどもたちだけでなく大人も参加して、皆でうどん打ち、その後自分で打ったうどんを茹でて食べるというおひる食堂を兼ねたワークショップを6月24日に開催しました。この日はおひる食堂として開催しました。

予め一人前分と決めた量の小麦粉と塩をビニール袋に入れて用意しておき、その中に事前に用意した水を少しずつ混ぜ合わせる作業を行います。水分が小麦粉全体に行き渡ったら、床に敷いた新聞紙に小麦粉の袋を置いて足で踏みます。この段階までくると子ども達は面白くなるようで、どんどん自分でやっていきます。最後は、練った小麦粉を袋から出して、麺棒で平たく伸ばし、適当な幅に包丁で切っていきます。ここでの子ども達の動作は実に面白いです。なかなか平たくならなかったり、力を入れすぎて途中で切れてしまったり。でも中には、大人顔負けに「うどんを打つ」ことができる子がいます。日頃のわんぱくな姿からは想像もできない繊細さを知ることができました。子ども達に色々な体験が出来る場を提供することが大切なんですね。

※ここで使用した小麦粉は、おひさまの文庫周辺の畑で農薬を使わずに栽培した農林61号という品種の小麦を白子町の製粉所で製粉してもらったものです。

●特集 "おひさまの夏休み" 1

わんぱく三人衆の日光浴？

貯金箱やカメラ、ロボットなどをつくる工作教室

手巻き寿司づくりの体験教室

発行責任者：おひさま文庫・鈴木孝雄　編集：NPO法人 3.11こども文庫　執筆：おひさま放課後クラブのこどもたち ほか　協力：東金市立福岡小学校　東金市立福岡こども園　東金市立嶺南幼稚園　東金市立正気幼稚園

●おひさま蓮華まつりを開催

蓮華の花が満開となった4月29日、第一回おひさま蓮華まつりを開催しました。午前10時、正気地区お囃子の会による「大漁節」でオープン。その頃から自動車が次々とやって来て、入場者数も急に増えだし、各店舗を見て歩くお客さんで会場内はとても賑やかになりました。たくさんの子ども達や親子連れの方々のほか、市内にある複数の介護施設からも利用者とスタッフの方々が来られていました。

催し物・出店・フリマ・ワークショップは長く地元で営業している牛乳屋さんを始め、おひさま放課後クラブの保護者やその繋がりのある方々によるもので、それぞれの店先が多世代交流の場となりました。また子ども達は蓮華の田んぼに作った遊歩道を走り回り楽しそうに遊んでいました。

今春福岡小学校を卒業した中学生たち9名が祭り本部付スタッフになって活躍してくれました。また準備の過程から複数の放課後クラブ保護者が関わってくださり、保護者や地元地域の方々、支援者の方々が積極的にスタッフとして参加して下さいました。お陰様で懸案だった駐車場の混乱はなく、熱中症などに罹る人も出ずに無事終了しました。

このような形で今回はたくさんの方々がこの取組みを支えて下さいました。その結果として、おひさま文庫を支えてくださる方々の輪が大きく広がり、その支えもよりしっかりしたものになりました。来年はおひさま文庫単独ではなく、できることなら行政含め地域の方々との協同企画になれば良いなと考えています。

※出演・出店者からメッセージ

蓮華まつりのオープニングで関下お囃子の会は、大漁節、ばか囃子、羯鼓(かっこ)返しなどを演奏しました。

関下お囃子の会は、一度途絶えてしまった地区のお囃子を復活させたいと発足した会です。昨年秋には地区を廻る行事が出来ました。今は正月獅子舞いができる様に、西野地区などの獅子舞いを参考に練習しています。

当日は、ご高齢の皆様、車椅子の方々が熱心に聞いて下さり、アンコールまでして下さりとても嬉しく感じました。また、広々した畑ステージで演奏できたのも気持ち良かったです。この会は関下地区だけでなく、東金市の方は参加できるので、詳しくは正気公民館においてあるチラシをご覧下さい。(繁田)

【地域の恒例行事になることを祈念】

長い間こちらの地域で商売させて頂いていますが、顔見知りのお客様とも多数交流の場を頂けたことに感謝申し上げます。

今回一番印象に残ったことは、想像を超える子ども達の多さと、その子ども達が喜んでくれている笑顔が見れたことはとても嬉しく思いました。

このような行事が、毎年恒例行事として地域に根付いていくことをご祈念申し上げます。(フルヤ牛乳　東金販売店　佐久間 一)。

【レジンキーホルダーのワークショップを開催してみて】

全部で9名の子が参加してくれました。途切れる事なく申込みがあり、とても好評で嬉しかったです。

時間を区切り、1回に3～4人が上限だった為、中には参加したいのに残念ながらお断りした方も出てしまい、そこは大変申し訳なかったです。形は皆同じでしたが、各々楽しそうに色付けや封入物を選んでオリジナル作品を夢中に作っている子供達の表情がとても印象的でした。次回があれば大人向けのワークショップも展開したいと思います。(板倉)

「ドリンク販売と駄菓子の販売をしました」

駄菓子屋さんは老若男女問わず人気がある事を改めて実感しました。

今回は初開催の為、色々な種類の商品を仕入れてみました。当日の販売の様子を見たり、実際に商品のお話をしたりして販売する側も楽しかったです。次回の開催時に再出店出来ましたらまたラインナップを変えて「楽しさ」や「懐かしさ」を感じて頂けたらと思いました。(保護者)

(補足)おひさま文庫周辺の田んぼでの蓮華栽培は2018年から行われてきました。現在ではUさんが耕作する約3ヘクタールの田んぼで蓮華と稲の循環栽培が行われています。田んぼで蓮華栽培を行う目的は①養蜂家は蓮華を蜜源と活用することであり、②耕作農家は高騰する肥料の代わりに蓮華を緑肥として利用することにあります。

参加人数	約250名(運営スタッフ、出店者も含む)

種類	数	内容
催し物	5件	正気地区お囃子の会、人形劇サークル赤ずきん、読み語りボランティアそら、安原樹さんたちのコンサート
出店	10店舗	牛乳屋さん(主にかき氷)、お母さんのシフォンケーキ、ソラハナ(パン)、駄菓子屋さん、みろく農園(農産物)等
フリーマーケット	2店舗	保護者による子ども服等を販売
ワークショップ	6件	蓮華の花冠づくり、レジン雑貨、綿くり体験、手回しオルゴール(演奏)、竹とんぼ飛ばし体験、アロマスプレー等

寄付金等	金額(円)
個人の方からのお祝金	16,000
会場設置募金箱	11,330
出店者からの寄付金	17,650
合計	44,980

●ヤッシーの何でも話 ⑨ ～性教育～

私たちが子どもの頃、性教育はありませんでした。大事な話だから、子どもは知っておいた方がいいと思うのです。自分の身体を大事にしてもらうため、他者を大事にするためのお話です。身体のしくみ、生理、妊娠等々、命に関わる話になります。年齢に合わせて話し方は変わりますが、性被害のことも知っているといいかなと思います。小さくても何歳だろうと男女関係なく性被害はあります。残念ながら、なくなりません。無知故に自分が性被害に遭っていることに気付かないこともあるし、知っていたら何かを察知して回避できることもあると思います。

急に性教育の話って言われても、ハードル高いですよね～。おひさま文庫に性教育の本があるので、関心のある方は是非読んでみて下さい。小さい子用と思春期用の2冊あり、貸し出しOKです！

痴漢等に遭うと、被害者なのに怖くて恥ずかしくて声を上げられない等、理不尽な思いをします。そんな時「やめて！」「イヤだ！」と言うことは、とっても勇気がいるけれど、とても大切なことです。痴漢等に限らず、困った時に「助けて」と言えるか言えないかは、人生を大きく左右するでしょう。自分を振り返った時、果たして人に助けを求められているか…？そんな大人が多いのではないでしょうか。小さな時から助けを求める練習を積んで、「助けて！」と言える人になって欲しいと、心から願っています。

●ありがとうの日、始めました

徐々に男子メンバーも増え賑やかさが増したおひさま放課後クラブ。遊びの種類も増えれば当然いざこざも多種多様に。状況改善を目指しスタッフ総出で知恵比べの真っ最中であります！

そんな中、子ども達が良い行いに目を向け、お互いに感謝の心や思いやりが持てる仲間でいてほしい、との思いから取り組み始めた月に一度の「ありがとうの日」。

親切や助けてもらえたことに対して、みんなの前で改めてありがとうを伝えようという時間。戸惑う子ども達を前にスタッフが一つ二つとありがとうを伝え始めると子ども達からも次々にありがとうが聞こえてきました。

「A君が怪我をした時に大丈夫？って言って絆創膏を取りに行ってくれました。ありがとう！」それを聞いた周りのみんなも拍手をしながら「ありがとう！」を声に出すという具合。

ありがとうを言われる子の反応も見どころ。素直に嬉しそうな子、「なんで言うんだよ！ここで言うんじゃねぇよ！」と言いながらも赤面してニヤニヤを隠すのに必死なガキ大将…そんな光景を微笑ましく眺めつつ次はどんなありがとうで褒めちぎってあげようか(フフフ)…と次のひと月が楽しみになるスタッフ達。

「褒めることで脳は喜ぶ。脳が喜ぶと心が変わる。褒める側も褒められる側も！」これは脳科学で実証済みだとか。「ありがとう」という言葉のもつポジティブなパワーをみんなで共有する時間は子ども達だけでなくスタッフにとっても、相当なプラスの効果があるはず！(H)

『本棚を整理してくれてありがとう』

“ありがとうの会”の様子

●【寄付金についてのご報告とお願い】

わたし達がこの新聞で報告している取組みは、どれも日本財団の助成金と皆さまからの寄付金等に支えられて実現できたものです。

子ども達をそうっと見守ってくださる地域の方、「これ子ども達のおやつにね」と差入して下さる方々、「おつりは寄付するよ」とカフェの募金箱に入れてくれる方々、定期的に寄付金をお送り下さる個人の方々、そして地元に工場のある大手企業からのご寄付によるものです。

おひさま文庫の運営を支えるための寄付金として今年度は100万円を目標にしております(昨年度実績は約137万円)。この4月～7月末までに約14万円の寄付を頂きました。またお菓子や飲み物、野菜類、サッカーボールなどの遊具類のご寄付も頂いております。

8月中旬、子ども達に大人気だったブランコがついに…。皆さまのご支援をお待ちしております。

とうとうブランコの綱も切れてしまいました！

新規有料会員の募集

おひさま放課後クラブでは、有料会員を新たに若干名募集致します。また、来年小学校に入学されるお子さんのいらっしゃるご家庭で当クラブに関心がある方の見学も大歓迎です。気軽にお立ち寄り下さい。

●特集〝おひさまの夏休み〟2

納涼会(BBQ後の花火、楽しかった)

プールはおひさまの遊びの定番

夏はかき氷！ 幟旗も元気一杯

納涼会(BBQ。皆で食べると美味しい!)

納涼会(お～い。焼けたよ!)

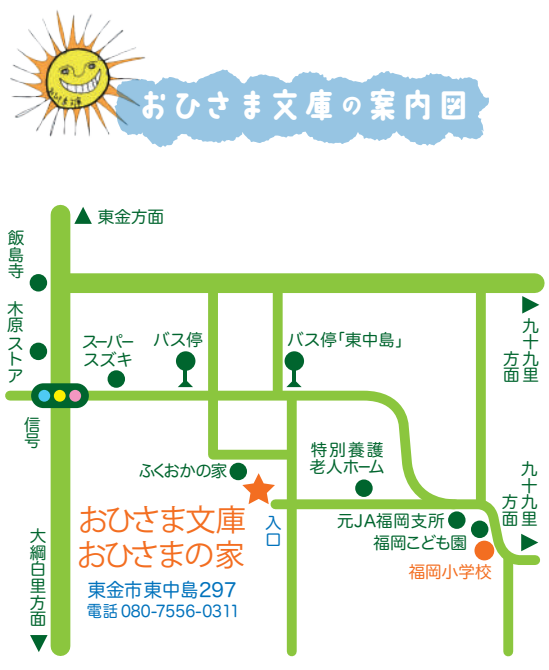
「読み語りボランティアそら」による『おはなし会』

●【編集後記】

猛暑続きの夏ですが朝夕は秋を感じさせるかのように涼しくなり虫たちが鳴き出し、周辺では稲刈りが始まりました。

おひさま文庫のスタッフは皆バテバテですが、子ども達は掲載した写真のとおり元気一杯です。このパワーはどこから来ているのか不思議でなりませんが、この状態で9月1日から子ども達全員が無事に登校してくれることを願うばかりです。

この号は夏休み前に発行予定でしたが、いろいろありまして一ヶ月以上遅れてしまいました。福岡小学校の行川校長先生をはじめ原稿執筆にご協力頂きました皆さま方には大変失礼なことになってしまい、またご支援下さっている読者の皆さまにもご迷惑をおかけしました。8月末の発行となりましたので特集〝おひさまの夏休み〟と題して、夏休みの子ども達の元気な様子を写真で紹介することにしましたが、如何でしたか。厳しい残暑がまだまだ続くようです。皆さまのご健康を祈念いたします。



発行責任者：おひさま文庫・鈴木孝雄　編集：NPO法人 3.11こども文庫　執筆:おひさま放課後クラブのこどもたち ほか　協力：東金市立福岡小学校　東金市立福岡こども園　東金市立嶺南幼稚園　東金市立正気幼稚園

おひさま文庫新聞

2023年
12月号 ~第13号~

~発行元~
おひさま文庫
(NPO法人3.11こども文庫)
東金市東中島 297
電話：080-7556-0311

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

●東金子ども・子育て支援第1回地域懇談会を開催

~「子育てしやすい環境とは何か?」を考える~

10月19日、おひさまの家で東金子ども・子育て支援第1回地域懇談会が開催されました。今回は「子育てしやすい環境とは何か?」をテーマに、子どもや子育て支援に実際に関わっている行政機関、民間団体などの関係者に呼びかけたところ17名の参加がありました。

家族の形態や機能の変化、地域コミュニティの希薄化などが急速に進む今、出産から実社会へ巣立っていくまでの子育ての各ステージの課題に対応した具体的な支援が求められています。

今回の懇談会の目的はこのテーマに関連する行政の施策や子ども・子育て支援活動に取り組んでいる民間団体の現状や課題をお聞きし、いま何が課題となっているかを情報共有することで、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティづくりの足掛かりをつくることにありました。

この懇談会は日本財団の助成により公益財団法人ちばのWA地域づくり基金とNPO法人3・11こども文庫が主催したものです。

以下、今回の懇談会の様子を紹介します。

◉セッション1「事実の共有」

◇行政による子ども・子育て支援に関する東金市の施策紹介

【1】子育て支援課児童家庭係係長 丸山達巳さん

妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行う「子育て世代包括支援センター」を平成30年に設置し、子育て支援課と健康増進課の2つの課で連携運営していることや、「子育て支援コーディネーター」を配置していること等の説明がありました。これらの他にも複数の子育て支援策を行っている状況報告がありました。

【2】健康増進課母子保健係長 内山明美さん

妊娠の届出をされた方全員を対象に保健師が面接し、伴走しながら必要な支援へつないでいる。マタニティサロン、産後ケア事業、赤ちゃん訪問事業、乳幼児健康相談など多面的な支援事業の紹介がありました。

【3】教育部学校教育課指導係主幹 古川寛之さん

東金市教育委員会が実施している3つの取り組み(①教育相談活動と学校との連携、②子どもの居場所づくりと学びの保障に向けた子ども支援、③関係機関との連携による子どもに寄り添った支援 の紹介がありました。特に③子どもと家庭を包括的に支援するためには関係機関との連携が重要とのことでした。

◇子育て支援をしている民間団体からの活動内容や課題の報告

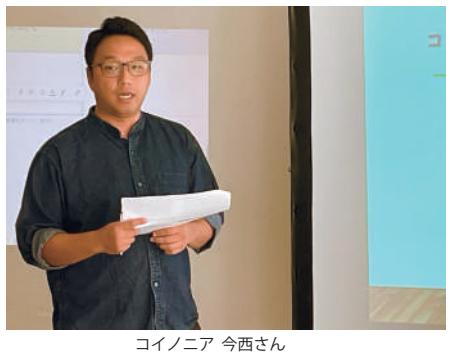
【1】株式会社コイノニア 今西航地さん

『~みんなの実家プロジェクトを実践中!~』

東金市家之子にある介護施設コイノニアの今西さんは「里親をやりたくて介護事業を始めた」と言われ、現在は老人介護事業が中心だが将来的には子ども支援事業もやっていきたいとのことでした。

コイノニアは普通の介護施設とは違い、利用者・スタッフ・スタッフ家族で旅行に行ったり、高齢者の看取りに子ども達も加わったり、スタッフの子どもを皆で育てたりと、既にみんなにとっての「実家のような機能」を果たしており、今後はこれを少し拡張していきたいとのことでした。

看取りを自然なかたちで迎えたり、スタッフの子ども達を皆で育てたりそれぞれの人生が重なり合うように時間が流れています。今後は地域社会の新たなモデルとしていきたいとのことでした。


コイノニア 今西さん

【2】チームまいまい 福田ゆず子さん

『~第二の我が家で、のびのび過ごそう!~』

大網白里市にある「まいまいほーむみどりが丘」を運営中。活動は大きく2つあります。保育士6名・保育補助者5名による週4回の一時預かり保育と、月3回の子育てイベントアラカルト(託児付きイベント&講座)です。

この取り組みから見えてきた子育ての課題は「つらいので今日、預かってください」といった飛び込み利用者の声(その背景にある早期に気軽に相談できる先がない)「育休中の居場所がなく、子どもを預ける経済的余裕もない」といった切実な声に向き合った母親支援がまず必要とのことでした。

チームまいまい 藤田さん

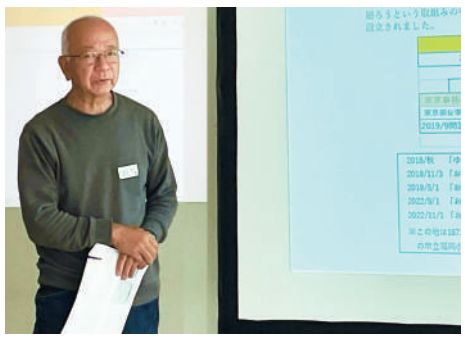
【3】おひさま文庫 鈴木孝雄

『~子どもをひとりぼっちにしないために!~』

おひさま文庫では日本財団から助成を受けて、「おひさま放課後クラブ」という民間学童クラブを中心に「一時預かり保育」や「おひる食堂」(いわゆる子ども食堂のこと)を月一回開催しています。また地域の方々が気軽に立ち寄り一息つける場としてカフェを子ども達が下校してくるまでの時間帯ですが営業しています。

当クラブにやってくる子ども達の顔(様子)から見えてくる子ども達の課題や保護者の方々との会話などから伝わってくる子育ての悩みの特徴などについての報告がありました。

これらを踏まえて、子育てしやすい環境づくりの始めの一歩として、「①信頼できる大人がいて、子どもが安心して過ごせる家庭・学校以外の居場所」と「②親も子も困ったときに直ぐに連絡できる相談先」が地域に必要との提案がありました。


おひさま文庫 鈴木

【4】学び舎・ゆーすぽーと 藤田 実さん

今回の懇談会には急用で参加できませんでしたので、配布用に用意した資料と後日ヒアリングした内容を紹介します。

学び舎・ゆーすぽーとは、東金市を中心に特非営利活動法人ちば地域生活支援舎の一部門で様々な事情を抱えた子どもの学習・生活支援事業を行っています。

取組の一部ですが、今年で3年目となる東金市委託事業「すいっちプラス」という無料塾があります。中学3年生を優先に定員15名で平日週2回開催しています。支援者(教える方)は元教員、現役私立高校講師、大学生、高校生など。一番の特徴は夕食の無償提供で、子ども達のモチベーションを高めているとのことでした。

《この取組の成果》①利用者のほとんどが高校進学を実現、②利用者・保護者双方に学校以外に相談する場ができ、不安が解消、③たくさんの信頼できる大人との交流で、多様な価値観に触れ、刺激を受けていることなど。《今後の課題》①子ども学力の状況から個別指導が必要なため、教える支援者の確保、②支援を必要とする潜在的需要者とつながるためにどうするかなど。

◉セッション2「意見交換」

セッション1の課題を踏まえて、「子育てしやすい環境とは、具体的にどのような状態なのか」を考えるために3点の共通テーマについて、参加者が4グループに分かれてグループディスカッションをしました。各グループで出た意見をいくつか紹介します。

【テーマ①】 私が考える理想の子育て環境とは?

●家庭の不安定さが解消されるような支援が整っている・つながる人、相談できる人がいる。●2歳までは母子で一緒にいられる社会(お腹の中で1年)

【テーマ②】 理想の子育て環境をつくるために何が必要?

●家庭以外の居場所の確保・色々な支援を使うのが当たり前の社会に変えていく

【テーマ③】 支援者ができることは何?

●一人ひとりの気持ちを丁寧に拾ってつなげる・つなげる仕組みをつくる・実際に関わる支援者が一同に集まり共有できる場をつくる

当初は午前9時半から12時までと長いなぁと思っていましたが、実際の感じはあっという間でした。特にセッション2のデスカッションでは子どもを真ん中においた大人たちの熱い思いが次々と語られ、終了の合図があってもなかなか終りませんでした。

今回は何か具体的な結論を出すというような会議ではなく、それに向けた下準備のためのものでしたが、テーマ③で各グループから出た声に今後の課題が明示されているように思えました。

最後に、今回の懇談会を振り返って感想を3人の方からいただきましたので紹介いたします。

◉地域懇談会に参加し、東金という小さな街でもさまざまな角度から子どもたちの居場所づくりに尽力されている方がいるのだということを強く感じました。

子どもと一概に言っても、年齢や個の能力によってもニーズはさまざまです。アプローチの方法も、行政だからできること・民間だからできることも違い、その逆もまた然りです。

しかしながら、今回の懇談会では、子ども達の声にならぬ声を拾いたい。そんな大人でありたいという各々の思いが共通項として明確にあったように思います。

自己の主張をぶつけ合うのではなく、互いの主張の先に子ども達の希望の灯を絶やすまいとする、利他の心を大切にする大人たちの集まりに、今後とも期待したいと思います。(㈱コイノニア今西さん)

◉東金子ども・子育て支援第1回地域懇談会に参加の機会をいただきありがとうございました。

地域には様々な困りごとを抱える世帯が暮らしていますが、SSW(スクールソーシャルワーカー)は子どもから見える、気づく困りごとを入り口に、子どもとご家庭の相談をお受けしています。

多くの場合すぐに解決は困難で、時間とまわりの優しさ、そしてつながる支援の輪がもっと広がればと思いますが、今回の懇談会で行政も民間でもつながる先があること、そしてそれぞれに未来を考えての取り組みを共有することができたことが喜びです。ありきたりですがこうした機会のご縁から点から線、そして面になり、人が変わり社会が変わっていくのだと思います。

おひさま文庫様の取り組みから地域社会を変えていく波がスタートすることを、SSWも仲間として取り組んでまいります。(千葉県スクールソーシャルワーカー・東金市担当 谷野さん)

◉今回の懇談会では、各民間団体の活動報告から、どのような思いで支援が必要な人に対峙しているのかが伝わってきました。

特に子どもを支援する場合、家庭や学校、地域など、課題は周辺環境と密接にリンクしています。民間団体としてそれらをまるごと支援していくことの難しさを、報告から改めて感じました。

行政機関の方々がこれらの民間団体の報告を受けて、どのような感想を持たれたのか、お聞きしてみたいです。行政としてできることに限界があるということは、行政の中の方ご自身が痛感しておられることだと思います。しかし、組織を動かすのも所属する人々の「気持ち」だと私は信じています。

気持ちを動かす試みとして、こういった情報共有の機会をこれからも継続すべきであると強く感じています。(チームまいまい 福田さん)

●おひさまの家でしゃぼん玉大会

東金市子ども会育成協議会福岡支会支会長 野村鉄也

さる9月2日、おひさま文庫の敷地内で福岡子ども会のシャボン玉大会を開催しました。

子ども会では従来から福岡公民館にて「映画会」と称した夏祭りを開催し、映画のほかに模擬店も出したりして子ども達に喜ばれてきましたが、コロナ禍により2020、21年と開催できませんでした。ようやく昨年に再開でき、密室での映画上映や模擬店は行わず、屋外でのシャボン玉遊びや屋内ではプロのパフォーマーによる妙技を楽しみ久しぶりに子ども達の喜ぶ顔を見られたのはうれしい限りでした。昨年の秋、ご近所におひさまの家が出来ました。子ども達になじみのあるおひさま文庫の隣にずいぶんきれいな建物が出来たなと思っていたところ、代表の鈴木さんからおひさまの11月イベント「おひる食堂」でインド料理のビリヤニを子ども達に食べさせてもらえないかという話があり、インド人の知人と参加したよい思い出があります。

そのようなつながりもあって、今年のシャボン玉大会は是非おひさまの家で開催したいと思い、お願いして実現しました。

当日はおひさまの家の一階で「子どもが入れる巨大シャボン玉」を行い、屋外では子ども達が様々なシャボン玉を作って遊びました。最後はプロのマジシャンによる素晴らしいマジックショーを子ども達や子ども会スタッフ・保護者の方々と楽しみました。

おかげ様で大成功のうちに今年のシャボン玉大会を終えることが出来ました。おひさま文庫の皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

子どもが入れる巨大シャボン玉

●お芋掘り体験!!

東金市立福岡こども園園長 今井尚美

福岡こども園の3・4・5歳児(約50名)が10月18日、春に芋苗植えをさせていただいたお芋の収穫をしました。

お天気にも恵まれて、早速、お芋掘りに挑戦!手が汚れることも気にせず、土をかき分けて次々にお芋を見つけて大興奮!「お宝だ!」「赤ちゃん芋だ!」と友達と一緒に楽しみながら掘っていました。

今年の夏は猛暑が続き、芋の成長を心配していましたが、すこし小さめだったもののたくさん収穫することができました。お土産のお芋を子ども達が選び、各家庭でいただきました。

5歳児は、みんなで収穫したお芋でクッキングをしようと話し合い、汁物を作ることにしました。「おいしくできるかな!」と、これからのお楽しみもできました。貴重な体験をさせていただきまして、ありがとうございました。

鈴木さんに掘り方を教えてもらってから、さつま芋を掘りました。

●おひさま文庫を視察して

東金市主任児童委員　塚田弥生

10月4日、東金市民生児童委員協議会研修部会で、おひさま文庫の見学をさせていただきました。

民生児童委員は比較的高齢者の支援が多い活動なので、同じ東金市内に住んでいながら、このような活動があることを知らなかった委員も多く、日本財団が行っている「子ども第三の居場所活動」含め、大変勉強になりました。

核家族、単親世帯、祖父母の養育、施設での養育など子ども達が育っていく環境はさまざまですが、子ども達が大人から守られ愛されはぐくまれる大切な存在であることは、時代が変わっても普遍の原則です。

おひさま文庫は、地域の子ども達がのびのびと安心して過ごせる基地であるとともに、多くの行事を通して地域住民を結びつける大事な役割を担っておられると感じました。

休止中の一時避難（宿泊）活動のニーズへの対応など、活動しながら課題解決していくのはご苦労が多いと思いますが、活動の益々の充実をお祈りしています。

●パッククッキング！

JA 山武郡市女性部福岡支部支部長　高川文子

9月16日、おひさまの家でJA 山武郡市女性部福岡支部と東金市食生活改善会福岡支部が企画して災害時だけでなく、日常でも役立つ時短調理法＝パッククッキングの体験会を開催しました。おひさまの子ども達や大人たち総勢30名が参加しました。

パッククッキングとは、食材を入れた耐熱性ポリ袋を鍋で湯煎するだけで料理できる調理法で、簡単に暖かい料理が作れるため注目されています。

今回子ども達と作ったメニューはアサリと野菜入りのシチューとご飯でした。まず、ポリ袋の中に①玉ねぎ②アサリの水煮③シチューの素④牛乳を入れ、中の空気を抜き袋の口を結びます。米は軽く洗い、別のポリ袋に適量の水といっしょに入れて口を結びます。これらの袋を熱湯の入った大鍋に入れて加熱し出来上がりを待ちます。

「え～、これでシチューができるの？」という子ども達の声が聞こえてきます。待つこと25分、大きく膨らんだ2つの袋の中にそれぞれシチューとご飯が出来上がっていました。鍋からトングで取り出し口を開けるとシチューの香り、炊きたてのご飯の香りが漂ってきました。

「わぁ～、シチューの良い香り だ」という歓声が聞こえてきました。

器を使わない食事だったので食べ難くそうではありましたが、パッククッキングの料理が思いのほか美味しかったようで、子ども達は大満足の様子でした。

●ちょこっと、おひる食堂の話

★【10月28日　きつねうどん】

おひさまの家カフェで販売中の「黒うどん（乾麺）を使って、具沢山のきつねうどんを提供。

子ども向けに柔らかめに茹でました。以前ある子どもから硬いと言われたので、子ども達の「おいしい！」「おかわり」の声に、ホッと一安心のスタッフでした。

《一口メモ》黒うどんは何故白くないのか？ 小麦を製粉するときにでるフスマ（表皮や胚芽）を含んでいるためです。その分だけ風味があり栄養価が高いといえます。品種は農林61号です。

★【11月3日　芋汁&おにぎり】

日ごろからおひさまの活動を支援して下さっているMさんが栽培する芋畑の芋掘りで、子ども達がゲットしたさつま芋と里芋を沢山使った芋汁&「れんげ米」のおにぎりを提供。

具沢山の芋汁が美味しかったのは想像の通りです。ただ、子どもも大人も「おいしい！」の第一声は、のりを巻いた塩おにぎりに向けられました。のり・ごま・塩・ごはん。シンプルながら本当に美味しかったです。

おにぎりって材料が一緒でも、おいしい時とそうでもない時があって不思議ですよね～。

《一口メモ》レンゲ米は、おひさま文庫周辺の田んぼでミツバチの蜜源用に育てたレンゲを緑肥にして作ったお米です。稲の品種は「粒すけ」。ごまは、東金市二之袋のMさんによる自家製のものです。

●おひさま ハロウィン 2023

毎年10月31日に、おひさま文庫ではハロウィンのイベントを開催してきました。今年も平日でしたが放課後、おひさまの子ども達に地域の子どもも集まってハロウィンを楽しみました。子ども達27人に、保護者やスタッフさらにはこの様子を見に来られた福岡小の校長先生も加わり、おひさま文庫の庭先は大賑わいでした。

前日から子ども達はノリノリで、持参した衣装や支援者から戴いた衣装を着てみては大はしゃぎでした。当日は持参したお化粧道具で思い思いのお化粧をして、近所のお家を練り歩きお菓子をたくさん戴いてきました。

ハロウィンがよっぽど楽しかったようで、その後1週間はこの話題で盛り上がっていました。

このような行事は地域の方々のご理解があってのことです。とりわけたくさんのお菓子を用意して下さっているご近所の施設や住民の方々のご協力には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。引き続き来年もよろしくお願いいたします。

呪いをかける魔女たち

可愛い魔女達！！

お隣さんの玄関口が賑やかに

隣の介護施設「ふくおかの家」にお邪魔して

●切株ペインティング

10月28日、おひさまの子ども達8名が杉の切株に自由なテーマで絵を描きました。切株に木に描くことは皆さん初体験でしたが、思い思いにトライして描いていました。

どれも個性豊かで見ていて楽しくなります。作品はおひさまの家の入口とおひさま文庫の縁側に展示中です。

皆さん！ ぜひ見に来てください。思わずにっこりされると思います。

●子どもにマッサージしたことありますか？

セラピスト　手塚安紀子

必要があるのかと言われそうですが、子どもの発育段階で不安や緊張などのストレスが続くと体が強張ります。

強張った筋肉は血流も悪く、背骨を引っ張るので歪みが生まれます。背中が硬くなることが多いので、酸素を入れたO2クラフトオイルを使用してほぐしたり、姿勢を整えるお手伝いができればと思っています。

マッサージは安心感や幸福感が増す幸せホルモンが出るので、ご家庭でもやってみてください。

●NPO法人3・11こども文庫の理事に就任した方の紹介

◇この度、新理事となりました鈴木潤一です。

出身は茨城県土浦市でございます。かつての茸、茨城県南部から大網白里市あたりまでを「宮谷県（みやざくけん）」という県名で呼ばれていた時代がありました。土浦から遠い所で活動している印象ですが、かつては「県内」だったと思うとなぜだか心地良くなります。

このおひさま文庫に通う子ども達も心地良い毎日を送れるよう共に歩んで行きたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

◇同じく、新理事になりました山下美紀です。

その流れを受けまして今後はおひさま文庫につきましても同じく新理事となりました鈴木潤一さんと2人新体制で携わってまいります。

おひさまお茶会でおひさまのお友だちとおいしく楽しく過ごしてきました時間を引き続き大切にしてまいりたいと思います。

地域の方々保護者の皆さまに見守られ自然の中でたくましくしなやかな心を育み成長し少しずつ大人に近づいていく姿のそばにいられることを嬉しく思います。

折々に福岡の皆様とお会いできることを楽しみにしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

●【寄付金についてのご報告とお願い】

この新聞で報告しているわたし達の取組みは、子ども達をそうっと見守ってくださるたくさんの皆さま方に支えられて実現できたものです。改めて御礼申し上げます。

今年度は100万円のご寄付を目標にしております（昨年度実績は約137万円）。

今年も株式会社丸山製作所様から50万円を寄付していただきました。4月～10月末までの寄付金は合計で約71万3千円となりました。引き続き応援をよろしくお願い致します。

また、本紙8月号で窮状をお伝えしたブランコは日頃からおひさまの子ども達を応援してくれている東中島地区在住のHさんがブランコの切れたロープを交換してくださいました。

＜修理前＞

＜修理後＞ Hさんと子ども達

●【新規有料会員の募集】

おひさま放課後クラブでは、有料会員を新たに若干名募集致します。また、来年小学校に入学されるお子さんのいらっしゃるご家庭で当クラブに関心がある方の見学も大歓迎です。気軽にお立ち寄り下さい。

●【編集後記】

11月3日に開設5年目を迎えたおひさま文庫はこれまでの取組を見直し、子ども達にとってより良い方向に進むために新たに理事2人を迎え入れた新体制で6年目を歩み始めました。これからの変化にご注目いただければ幸いです。

気温の寒暖差が大きく体調管理が厳しい中、インフルエンザなどの感染症が広がっています。子ども達には、学校から帰ってきたらマスク・手洗い・うがいを必ずするようにと声掛けしております。皆様もどうぞご注意ください。

facebook

『おひさま文庫』の
フェイスブックです。

日々起きる
ちょとステキな
出来事を
紹介しています。

ぜひ見てね！！

おひさま文庫新聞

2024年
3月号 ~第14号~

~発行元~
おひさま文庫
(NPO法人3.11こども文庫)
東金市東中島 297
電話：080-7556-0311

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

●『巣立ち』

東金市立福岡小学校 校長 行川 永

子ども達にとって欠かせない、心安まる居場所。おひさま文庫は、そんな存在として、毎日、楽しく遊ぶ、にこやかな笑顔や笑い声が絶えません。

4月から、卒業生の皆さんは、それぞれが新たな生活を始めますが、おひさま文庫で学んだ、人と関わることの楽しさや大切さを忘れず、しっかりと前を向いて、歩んでほしいと思います。

また、これまで育てて頂いた、おひさま文庫の皆さん、ご家族への感謝の気持ちを強くもち、中学校で力を伸ばすことはもちろん、時には家族を支え、励ます存在になってほしいと思います。それは、おひさま文庫やご家族への恩返しにもなるのですから。

●ご卒園おめでとう

東金市立福岡こども園 園長 今井尚美

福岡こども園の年長さんと1年前の4月に初めて会い、「なんてお話が上手に聞けるお友達なんだろう」と感心したことが一番始めに思ったことでした。

その姿を周りの関わる大人に認めてもらうと、更に自分で考えて大切な話だと思うことをしっかりと自ら聞いていました。その積み重ねがたくさんの学びとなり、様々な遊びを通して、友達の話を聞いて思い知ったり、自分の思いを友達に伝えたり、意見が違うことやうまくいかないこともありましたが、「こうすればいいんじゃない！こうしよう！」と、みんなが納得して、友達と仲良く協力して過ごしてきました。

そして、自然と年長さんの合言葉「やればできる」が生まれ、自分を信じ、仲間を信じ、最後まで諦めずに挑戦する姿に頼もしい成長を感じました。

実際、電車ごっこから、動く電車の乗り物を作り、小さいお友達を招待して、園全体で楽しむことができました。また、「本物の電車に乗りたい。」という思いを抱くようになり、保育者と年長児でどうしたら実現できるか考えたり、調べたりしました。お家の人や社会の方の協力をいただき、12月5日にバスに乗って大網駅に行き、電車に乗って東金駅までの往復の旅ができました。友達と一緒に社会のルールを守りながら、自分たちの思いを実現した経験は、子ども達の自信につながったと思います。

「やればできる」の気持ちと、こども園のお友達と様々な経験をしてきたことに自信をもって、これからの小学校生活を迎えてくれることを願っています。

●子ども第三の居場所「おひさまの家」活動報告会を開催

2月28日(水)おひさまの家で子ども第三の居場所「おひさまの家」活動報告会が開催されました。おひさまの家は2022年9月に、日本財団「子ども第三の居場所」事業の拠点のひとつとして、東金市・日本財団・ちばのWA 地域づくり基金の三者協定に基づき開所しました。事業開始から一年半を迎えるにあたり、より多くの子ども達や地域の方々に活用していただくために、地域の方々を始め関係する行政、小学校やこども園、各諸団体の方々向けに活動報告会を開催し、約30名の参加がありました。以下、活動報告会の様子をご紹介します。

■報告1 子ども第三の居場所コミュニティモデル@千葉について

ちばのWA 地域づくり基金(報告者・専務理事・事務局長 志村はるみさん)より、その概要の説明がありました。①日本財団「子ども第三の居場所」事業とは、主に小学校低学年の子どもを対象として、子ども達が安心して過ごせる環境で、将来の自立に向けて生き抜く力を育むと同時に、ここをハブとして行政、各種団体、市民、企業の方々と協力して誰一人取り残されない地域子育てコミュニティをつくる事業であること。②自治体と連携し、居場所の運営支援、地域の理解を深める対話の機会づくり、組織運営の安定化、自走化に取り組むなど

■報告2「おひさまの家」活動報告

おひさま文庫(報告者・鈴木孝雄)では、「子ども達の春夏秋冬」と題して、おひさまの家を中心に 子ども達が過ごした1年間の記録写真をプロジェクターで投影しながら、普段家庭や学校ではなかなか実現できない多彩な体験や子ども達の遊びの様子、地域の方々と一緒につくってきた春の「蓮華まつり」、「秋の「ハロウィン」、年末の「餅つき会」などの地域イベントの紹介がありました。

おひさまの家(おひさま文庫を含む)の子どもの利用状況では、おひる食堂(子ども食堂のこと)は毎月1回の体験型イベントと一緒に開催し、この1年間で250名以上の子ども達の参加がありました。また、2021年度から3年間のおひさまの家を利用した子ども達の数は延べ1万人を超えるまでになったことの報告がありました。

■意見交換会

以上2つの報告の後、6グループに分かれて2つのテーマで意見交換をおこない、その結果を最後に全体で共有しました。以下はその概要です。

■各グループで出た意見等を簡単に紹介します。

テーマ①「子どもに関する地域の現状と課題」については、福岡地区の子どもが少ない／見た目ではわからない精神的な貧困があるのではないか／両親だけの子育てになっていないか／以前に比べ体験不足、外遊びは大事など

テーマ②「『おひさまの家』を地域の資源として活用するために何ができるか」については、周知が足りない。「誰が来てもいい場所」だということを区長会などでアピール／すでにこの場所が地域の子ども達のために十分役立っている。次の課題は持続性＝人材と資本／学校でできない事ができる。世代間交流、地域の交流、カフェの活用を考えるべき／掲示板・回覧板などを活用したアナログの周知を行う／土・日は市外に出かけていく人たちが多いので、逆に土・日に人集めする策を考える／地元農産物のマルシェ、地区公民館のような使い方／ワインコインレストランなどの発想があってもよいのではないかなど

■参加者のアンケートより(一部抜粋)

報告会終了後、任意に提出されたアンケートの回答からは、おひさまの家の今後を真剣に考えて下さり、さまざまなご提案もいただきましたので紹介します。

【アンケート 問-①】 報告会に参加して印象に残ったことは何か

意見交換会で30名近くの方々が同じ問題意識をもっていることが分かった／多くの方がおひさまの家について前向きに考え、関わっていると感じた／おひさま文庫の活動が地域に根付いている／地域の課題も話し合えてよかった／おひさまの活動が子どもの生きる力につながっていると思った／地区連携への可能性が見えたことなど

【アンケート 問-②】 子供を取り巻く環境や地域の課題について

育児の孤立／外で遊べる環境が大切／地域全体に出会う、関わる機会が減っている／子どもの減少はさけられないので、その中で何ができるか、いろいろな立場の方々が話し合う今回のような機会は貴重／遊びを多くすることは子どもにとって大切／子どもが遊ぶ道具がもう少し増えた方がよいなど

【アンケート 問-③】 本事業をよりよいものにするため、お気づきの点など

どこのまま皆さんのつながりが深まると良い／今後もこうした機会を重ねてファンを増やしていければよい／継続するために財政的基盤の確立と活動内容の普及など様々な手を打つ必要がある／少しではあるが資金を援助したい／おひさまの家をもっと多くの方に知ってもらうPRが大切／今後のこの活動を長く続けて欲しいなど

■報告会に参加された方からのメッセージ

◉ 東金市 民福祉部 社会福祉課 社会係長 小山和哉さん

一昨年(令和4年)の9月2日に行われた開所式に引き続いて、今回の活動報告会に参加をさせていただきました。

報告会では代表の鈴木さんから、開所から今日に至るまでの歩みや活動状況について説明がありました。約30人の参加者は地元福岡地区の方々や保護者の方など、「おひさまの家」との関わりは様々で、関係する多くの方々がこのように一堂に会して、「おひさまの家」の目指しているものや役割についてお互いの意見を交わし、共有ができたことは有意義であったと思います。

授業時間中ということで、会場に子ども達の姿はありませんでしたが、今回の報告会を通じて、この場所が子ども達だけではなく活動に携わる多くの方々にとっても「居場所」となっていることを知ることができました。ありがとうございました。

◉ 下谷区 区長 横山隆さん

私はおひさまの家のすぐ近くに住んでいます。正直に申し上げて最近まであまり関心がありませんでした。おひさまの家がオープンしたときに放課後の学童保育だと思っていたため、年寄りには関係のない場所だと思っていました。昨年何となく気にかかっていたところ、たまたまおひさま文庫の鈴木さんとお話しする機会があり、下谷区の子供たちは何人くらいお世話になっているかとお聞きしたのがきっかけで、下谷区として何かお手伝いできないかと考えておりました。

そんな折、おひさまの家の活動報告会があるとお誘いを受けました。下谷区からの支援をするにあたり、どのような活動をされているかを見させていただく良い機会だと思いました。参加してみて本当にびっくりしました。東金市職員、福岡小の校長先生他たくさんの方々がおひさまの家を支えてくれていることに感動しました。また、公益財団法人ちばのWA地域づくり基金、日本財団などの支援もいただいていることにも驚きました。特に日本財団が支援する子ども第三の居場所コミュニティモデルに千葉県で二つの施設の一つに選ばれ活動されていたことに本当にびっくりです。その様な施設が自分の住んでいる地域にあることが誇りに思えます。是か非でも子ども達の第三の居場所を維持するため、今後も関心を持ち続けて積極的に応援したいと思います。

◉ 保護者 板倉恵李さん

今回の報告会に初めて参加させていただき、様々な方のお話を聞けて大変勉強になりました。また、グループディスカッション後の各グループ発表は意外にも共通の問題意識をみなさん持たれている事を知り、あとはどれだけ行動できるか。という事なのかな。と感じました。今後もおひさま文庫が発展していけるよう、非力ながらもお手伝いしていけたらと思います。

■最後に… 今回お集まりいただいた方々が「おひさまの家」のこれからの活動に主体的に参画してもらえるような体制を作っていかなければならないと実感した次第です。(おひさま文庫 鈴木孝雄)

※この報告会は日本財団の助成により公益財団法人ちばのWA 地域づくり基金とNPO法人3・11こども文庫が主催したものです。

●恒例の餅つき会

昨年12月23日(土)、今回で5年目となる餅つき会が開催されました。今回の特徴は地域の方々が中心となって準備から終わりまで運営してくださったことです。最初の年は鈴木家の餅つきにあちこちから集まった人たちが手伝うというスタイルでしたが、回数を重ねるにつれて、たくさんの方々の手で行われる地域行事に育ってきたと実感しています。

今回は東金市食生活改善会福岡支部(以下、食改と略します)の皆さん9名が、前日午後1時から下準備を始め、当日も朝一番にやってきて、もち米を蒸す準備を開始、併行して雑煮やお汁粉を作る作業をされました。

杵の餅つきは子ども達に大人気で、子ども達は杵に振り回されたり、大人顔負けにつく子もいたりと賑やかでした。

併行して電動機械による餅つきも行われました。①蒸し上がったご飯を機械に入れる担当は福岡地区社協のIさん、②その先から棒状にでてくる餅を適当なサイズに瞬時に切り分けるのは大ベテランのHおばあちゃん、③その餅を丸めて丸餅にするのは子ども達やお母さんお父さんたち、④丸餅を板に載せて風通しのよいところに運ぶ方という作業工程があり、その流れ作業を参加者が交代で行いました。初参加の方は、毎年参加され作業のコツを知っている方から気軽に教えてもらうなどして楽しんでいました。

昼食は食改の方々が作ってくれた「具たくさんの雑煮」と「お汁粉」。とても美味しく皆さんお替りをしていました。

《今年の主催は、"Team麦畑"》
参加者数 97名 (子ども36名、大人61名)
＊使ったもち米 80kg

●防災クックパッキング２

1月20日(土) 東金市食生活改善会福岡支部の方々のご指導で、昨年秋に続き2回目となる防災クックパッキングのイベントを行ないました。今回はカレーライスです。

子ども達の目の前には、洗った野菜が置かれ、不慣れながらも真剣に、皮むきや大きさをそろえて切る作業が行なわれました。その後、一人分ずつ耐熱性のポリ袋に入れたのですが、空気をなるべく入れないように袋の口をしばるのが難しかったようでした。お米も水を入れ、袋の口をしばり、熱湯に入れます。家でやる時は、熱湯の鍋は大きいもので、底に皿などを敷くといいとのアドバイスがありました。

20～30分沸騰させ、トングで袋を上げると、子ども達は待ちきれないように寄ってきました。「ご飯がギュッとなっている」「すごく熱い」「いいにおい」「早く食べたい」「ほんとに出来てるの」などと口々に言い、各自が持参したマイ食器に入れました。「おいしい、おいしい。」と食べ、楽しく実りのある日になりました。(繁田)

●子ども達と節分

小規模多機能ホームふくおかの家　長門　由真

先日、隣のおひさま文庫さんよりお誘いを受け、節分の豆まきを合同で行いました。

ふくおかの家の職員が鬼に仮装して、おひさまの家を利用している地域の子ども達と触れ合いながら豆まきを楽しむ事が出来ました。ふくおかの家のご利用者も元気に走り回る子ども達の姿を見て笑顔いっぱいでした。

普段の生活ではできないような貴重な体験で、子ども達と一緒に楽しいひと時を過ごすことができ、ご利用者、職員一同とても嬉しかったです。

これからもこのようなイベント等がありましたら地域の皆様と一緒に参加出来たらと思います。

●おはなし会

読み語りボラティアそら　管　正子

「読み語りボラティアそら」は、山武市を中心として近隣地域に、絵本の読み聞かせやお話しを届けている団体です。

おひさまの家での「おはなし会」を始めてもうすぐ一年になります。月に一度程度しか伺えませんが、メンバー二人組みで、交代しながら、元気な子ども達と楽しんで行っています。

学校の朝読書や学童クラブでのイベント的なお話し会とは違い、定例でお話しを届ける事ができる事は届ける側、聞く側にとっても良い時間だと思います。

毎回届けるお話しは、子ども達が少しでも興味を持ってくれて、「あ～楽しかった」と思えるような組み合わせを心がけています。

辛いことや悲しいことがあっても、こんな世界があるよ！とお話しは語りかけてくれます。本を開けば、その世界へ一瞬で行けるーそんな体験をたくさん味わってもらいたいです。

●「3月11日の、あのね。#13」展覧会に出展

今年で13回目となる「3月11日の、あのね。」展に、おひさま文庫からは9人の子ども達が杉の切株にそれぞれ描いた作品(本紙昨年12月発行第13号で紹介)と、パッククッキング(本紙の記事「防災クッキング2」で紹介)のことを子ども達が紹介した壁新聞を出展しました。作成に関わった子ども達やその保護者の方々に出展したいと相談したところ、皆さんとても喜んで下さいました。

◉「3月11日の、あのね。#13」展とは？

（今回の「あのね展」チラシより抜粋）

13年前わたしたちは、震災直後の福島の子どもたちに会いに行きました。子どもたちは「地震のとき、あのね。」と話しかけてくれ、この体験をきっかけに当展覧会は生まれました。今年も2月27日から3月3日までの間、東京都渋谷区代々木にあるこくみん共済 coop ホール／スペース・ゼロ 地下1階ギャラリー・展示室で開催されました。

●世界に一つだけの土鈴

福岡小学校学習サポーター　内山　清美

土鈴(どれい)＝鈴と知っている子は、ほとんどいませんでした。そんな中で始まった土鈴作り、粘土をのばしたり、形を作ったり、初めての体験に悪戦苦闘しながらもみんな楽しみ、穴を開けて鈴の形にすると、「ベイマックスみたい」と喜んでいました。

一か月の乾燥の後、野焼き。1時間弱で焼き上がった土鈴の中から燃え残ったススを出し振ると音が鳴ります。中に入れた球の大きさで音が違うため、色々な音色が響きました。最後に着色して「世界に一つだけの土鈴」が完成しました。（＊2月3日に粘土で土鈴作り／3月15日に野焼き、色塗り）

作品ギャラリー

●「又要你了。」

元 千葉県立高校 教諭　山本 郁夫

「要不要我？」「要你。」「不要你了。」中国語で、「要るの、要らないの？」「要るから来てよ。」「もう要らないよ。」です。

昨年の夏休み、手が足りないと呼ばれ、子らの監視スタッフに入れてもらいました。高校で国語の教員をしていたのですが、小学校の子らは初めてで、そのパワーに負け、正直、2～3回やめようと思いましたが、なんとか八月末日まで勤めることができました。

9月いっぱいは特に何にもなかったのですが、10月に入って、「又要你了。」「また手が足りないから来てね。」と言われ、うれしかったです。

インターン期間が終わっての「可」「不可」の評価。「まっ、いいか！」の「可」かもしれませんが、とにかく「可」をいただいたことがうれしいのです。（現在、おひさま放課後クラブ非常勤スタッフ）

◎◎◎ 蓮華まつりのご案内 ◎◎◎

4月27日(土)に開催予定。今年も農家Uさんのご協力により、おひさま文庫周辺の田んぼ一帯が蓮華色の絨毯になります。

この頃には田植えがひと段落していると思われます。皆様のご来場をお待ちしております。詳細は後日チラシなどでご案内します。

地域の皆様へ

『おひさま放課後クラブ』終了のお知らせ

平素より、おひさま放課後クラブの活動等にご理解ご協力賜り誠にありがとうございます。

突然ではございますが、この度、おひさま放課後クラブは令和6年3月31日(日)をもちまして、終了させていただくこととなりました。

おひさま放課後クラブ終了に伴い、令和6年4月1日(月)より、おひさまの家、おひさま文庫、カフェ手紙の木をお休みいたします。再開については未定です。

長きにわたり多くの子どもたちにご利用いただきまして、誠にありがとうございました。

おひさま放課後クラブ終了に伴い、皆様には多大なご迷惑をおかけ致しますことを深くお詫び申し上げます。

今後ともおひさま文庫をよろしくお願い致します。

令和6年3月20日　NPO法人 3・1こども文庫

●【寄付金についてのご報告とお願い】

わたし達がこの新聞で報告している取組みは、皆さま方に支えられて実現できたものです。

子ども達をそっと見守ってくださる地域の方、「これ子ども達のおやつにね」と差入して下さる方、「おつりは寄付するよ」とカフェの募金箱に入れてくれる方、定期的に寄付金をお送り下さる個人の方、クリスマスにはならずご寄付とお菓子を届けてくださる牧師さん、そして地元に工場のある大手企業からのご寄付によるものです。

おひさま文庫の運営を支えるための寄付金として今年度は100万円を目標にしております。この2月末までに約75万円の寄付をいただきました。またお菓子や飲み物、野菜類などご寄付もいただいております。ありがとうございました。諸経費の節約に努力しながら「地域で子育て」を合い言葉に子ども達に寄添った活動を続けて参ります。皆さまの更なるご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

●【編集後記】

12月から3月にかけてのおひさま文庫の取り組みを紹介させていただきました。これらは地域の皆様はじめたくさんの方々のご支援により実現できたものです。心より感謝申し上げます。

このような中で、「おひさま放課後クラブ終了」の突然のお知らせとなり、皆様には多大なご迷惑をおかけ致しますことを深くお詫び申し上げます。